

「ひとのときを、想う。」をテーマに「JTフォーラム」(茨城新聞社主催・(社)日本ベンクラブ、茨城県など後援、JT協賛)が10月18日、水戸市のフェリヴェールサンシャインで開かれました。第一部は、作家・タレントで日本ベンクラブ会員の志茂田景樹さんが「かけがえのないもの(の)在り場所」と題して講演し、「10年何かを買けば、哲学になる」と呼びかけました。第二部は映画監督で俳優の奥田瑛二さんが「映画は人生、そして家族」と題してトークショー。俳優業や監督業と家族の関わりについてエピソードを披露しました。その要旨を紹介します。



第一部  
ゲスト



しげも と けいすけ  
志茂田 景樹氏 (作家・タレント  
日本ベンクラブ会員)  
演題: かけがえのないもの(の)在り場所

1940年豊前県生まれ。1976年「ヤッコとごっこ」の歌  
現代新人賞を受賞し、作家デビュー。1980年「黄色い花」  
で芥川賞受賞。その後ベストセラーを数出し、またテレビで  
人気番組「奥田瑛二がラング・グループ」「よい事に誘  
われて」の司会としても活躍。

### 10年買けば人生の哲学に

僕は25年ほど前はごく当たり前のファッションをしていました。当時、ニューヨーク帰りの知人が、マリリン・モンローの顔をプリントしたタイツを2着くれましたが、こんなもの、要がはけるわけがない、とソファに投げ出しました。

そんなタイツを見てしまった気持ちを取り替えるために入浴し、タオルで体を拭いていたら、タイツが壁の隅に挟まっています。なんかゾクゾクという感じで、はいてみたくなって、はきました。ジーンズを切って短パンにして、タイツの上からはき、外へ出ました。

気分良く歩いていると、蒸れ違う人がギョッとした顔をしたり、白い目で見ると。3人連れの前と連れ違い、蒸れ違ったら、ヒソヒソ話して、1人は指さしているのです。さすがに落ち込みました。誰かも地獄、引くも地獄、どうせ地獄なら盗んでやろうと聞き取りました。すると、意外と善隣にならないのです、それから種のファッション

は変わりました。香木真希もらって6、7年。心に貼り付けたきた数着(ごうまん)という不審な札をいくらか剥がすことができました。

● 絶えず気持ちを取り替える  
『週刊文藝』が後のファッションをグラフィック特集してくれ、「笑っていいとも!」からレギュラーのオフアームも来ました。僕はタレントではないので、自分のままをさらけ出すことができません。パッと出てあるがままの自分を出して、笑ってもらって、こっちも気持ちいいという世界です。ですから、バラエティーに出てしまえば垢を抜いても平気というが、こちらは聞き返っていますから、とても恐ろしく、世間が急に変わったと思いました。

こういう経験になって10年たったら、あれだけ押し通せば直線だと、おされられながら認めもらえるようになりました。何かを10年買けば、周りは認めざるを得ないのです。その買ったものがその人の人生になると、僕は考ええています。

人間はなかなか悪業を返しません。返さないほうが楽だ

からです。でも、返さないでマンネリ化していくので成長できません。返さず悪業を返していくことです。

### ● あるがままの自分を出す

僕は今、73歳です。100歳を越えても元気な約50人の方に取材しました。健康長寿の方には共通点があり、やはり食べ物はバランスよく何でも食べるという方が多かったです。もう一つは、とても感受性が豊か。好きな人が好きな人が多いのです。また、インタビューの最中によく笑う方が多かったです。

特に印象的なのは、当時103歳の、お寺の住職さんでした。いろいろないい話を聞いて、こちらも心地よい思いでそのお寺を後にしました。数日後、その方からお手紙が来ました。「鎌江です。おはれく 貴は長く、己が長く、人大きく」と道徳さんの言葉が書かれていました。この教えをしっかりと守ってきたことが長寿の大きな原因ではないかと、書かれていました。その方は105歳で亡くなりました。悪業を返しながら、日々何が気持ちいいか考えをやりながら、大往生された方のお話でした。